

Keiba Global Front Line

競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人を紹介致します



合田 直弘

「今が旬」な競走馬や競馬人を紹介しているこのコラム。今月の主役は、デビューから無敗の8連勝でG1ケンタッキーDービーを制したナイクイスト（牡3）だ。

ケンタッキーのサマーハーフームが生産したナイクイストは、競走馬としてデビューする前に実に3度にわたって転売されている。

最初に上場されたのが当歳秋のキーンランド11月市場で、マディソンファームが18万ドルで購買。2度目の上場は1歳秋のキーンランド9月市場で、ここではサットンプレイス・ステーブルズが23万ドルで購買。そして2歳春のファシングティップトン・フロリダ2歳セールで、その後同馬を管理することになるダグ・オニール調教師の兄で、馬主ポール・レダムの代理人を務めるデニス・オニールが40万ドルで購入している。

馬名のナイクイストとは、NHLのレッドワインズに所属するスウェーデン生まれのフォワードプレイヤー、グスタフ・ナイクイスト（26歳）に由来する。カナダ人のポール・レダムが生まれ育つたオンタリオ州のウインザーという街は、レッドワインズの本拠地デトロイトとは川ひとつ隔てただけの至近距離にあり、レダムは幼少の頃からレッドワインズの大ファンだったのである。レダムがレッドワインズの選手から命名した現役馬は、ナイクイストが4頭目であった。

同馬は15年6月にサンタアニタのメイドン（d5F）でデビュー。頭差で制したこのレースが、今日に至るまで彼が最も“苦戦”を強いられた一戦となっている。

連勝街道を歩むことになった同馬の陣営が、ダービー前の最後の一戦にG1フロリダダービー（d9F）を選択したのは、ファンディングティップトン・フロリダ2歳セール出身馬が勝利すると百万ドルのボーナスが支給されるからで、本拠地カリフォルニアからフロリダまで長距離遠征を敢行。そこまで5戦無敗で來ていた東海岸の大将格モヘイメンを、完膚なきまでに叩くことに成功した。

ケンタッキー・ダービーも危なげのない競馬で制し、77年のシアトルスリー以来となる無敗のダービー制覇を達成したナイクイスト。この会報がお手元に届く頃、2冠目のG1プリーカネスSが終了しており、おそらくはここも無事に通過した同馬の3冠への挑戦が、大きな話題になっていることと思う。

北米3冠は昨年アメリカンブエイロードが達成しており、これが78年のアファームド以来37年ぶりのことだったから、「2年連続の快挙などあるわけがない」とお思いの方もおられるかもしれない。だが、40年代には4頭、70年代には3頭が達成しているように“出る時には出る”のが北米3冠馬で、現にアファームドは77年のシアトルスリーに統いて2年連続で誕生した

3冠馬だった。

問題はベルモントSにおける12Fの距離だ。

ナイクイストの父アンクルモーは11歳の2歳王者で、肝臓疾患というサラブレッドには稀有な疾病で春の3冠を全休した後、秋にはG2ケルソH（d8F）に勝ちG1キングスピショップS（d7F）で2着となっている馬だ。母シーキングガブリエルは1勝馬で、勝利を収めたのは6F戦だったし、母の父フォレストリーは、6.5Fから8.5Fの距離で7勝しているが、唯一制したG1はキングスピショップS（d7F）だった。そして祖母シーキングレジーナは、6.5FのG2アディロンダックSの勝ち馬だ。

一方で、父の代表産駒にベルモントS勝ち馬トナリストがいて、母の父の産駒には3200mのG1勝ち馬もいて、祖母の父はサドラーズウェルズで、祖母の1つ年上の全兄にG1愛セントレジャー（芝14F）勝ち馬ダークローモンドがいるという、距離延長大歓迎の血統背景を持つのがラニ（牡3）だ。

ベルモントSのゴール前でナイクイストの脚が上がった時、これを交わしていくのがラニ”というのが、日本の競馬ファンにとって最も望ましい結果であろう。